

たぐすい

TAKUSUI
No. 653

3

March, 2011

発行 財兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



解禁初日の漁模様に期待が高まる（生穂漁港にて）

東北地方太平洋沖地震

被災地へ義捐金募集など復興支援を開始

JFグループ兵庫

NEWS **イカナゴ新子漁解禁**

Report **第14回「山田記念賞」表彰式・祝賀会 開催**
2010年度兵庫JCC研究・交流会 開催
対面販売力強化研修会 開催

「東北地方太平洋沖地震」

被災地へ義捐金募集など復興支援を開始

JFグループ兵庫

3月11日（金）、三陸沖を震源としたマグニチュード9.0の「東北地方太平洋沖地震」は、大きな揺れと大規模津波を引き起こし、多くの尊い人命を奪い、街を泥と炎により瓦礫の山へと変貌させ水産業をはじめとした地域経済に壊滅的な被害をもたらしました。被災地では多くの方々が今も救助を待っており、避難所ではライフラインの絶たれた中、厳しい生活を強いられています。

ここに、亡くなられました方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被害を受けられました方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。

JFグループ兵庫では、阪神淡路大震災の時に暖かい支援を寄せられたことを思い返し、被災地の復興を出来るだけ支援していくことが必要との認識から、系統団体常勤役員・参事をメンバーとした「東北地方太平洋沖地震JFグループ兵庫支援本部」を3月14日（月）に立ち上げました。今後、この支援本部を中心に義捐金取り纏め等、被災地支援に取り組んでゆくこととなりますのでご協力をお願いします。

本県での被害報告

また、今回の地震において、本県でも、JF福良で、到達した津波により棧橋アンカーチェーンの損傷、ブイ・イカダの漂流の他、養殖魚に対しても被害が出ました。また、同地区の「中間育成センター」において、養殖していたヒラメ稚魚約6000匹が全滅しました。お見舞い申し上げます。

JF全漁連・服部郁弘 代表理事会長より「東北地方太平洋沖地震」について声明が出されましたので掲載します。

東北地方太平洋沖地震被害に係る声明 ～我が国漁業の復興へのご理解・ご支援のお願い～

3月11日、我が国を襲った東北地方太平洋沖地震と大津波は、多くの尊い人命を奪うとともに漁業・漁村に壊滅的な被害を与えております。

亡くなられました方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被害を受けられた方々に対しまして心よりお見舞い申し上げます。

国におかれては、人命の救助と被災者の救援を最優先にお取り組みいただきますようお願い申し上げます。

JFグループといたしましては、「東北地方太平洋沖地震に係る漁業・漁村災害・復興対策本部」を直ちに設置し、政府及び関係団体と連携して被害状況の把握・救援、一日も早い復興に、全国の漁業者とともに総力を挙げて取り組んで参る所存です。

特に、津波による沿岸域の被害は甚大なものであり、漁船、陸上施設の被害のみならず、海に押し流された施設の除去等、漁場の復旧には相当な時間を要すると考えられます。

漁業者並びにJFグループは、未曾有の困難を乗り越え、食料供給や国民生活の安全確保の責務を今後とも果して参る所存であります。国並びに国民の皆様におかれましては、被災者の救助・救援、また、漁業・漁村の一日も早い復興に、何卒、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2011年3月14日

全国漁業協同組合連合会
代表理事会長 服部郁弘

第14回「山田記念賞」表彰式・祝賀会 開催される! ～本県水産業発展に貢献された3名・1団体が受賞～

(財)兵庫県水産振興基金

去る2月16日(水)、神戸ポートピアホテルにて水産振興基金主催による第14回「山田記念賞」表彰式および祝賀会が、県・漁協等の関係者ら約90名の参加を頂き盛大に開催されました。

「山田記念賞」は、永年にわたり大きな夢と希望を抱いて本県水産業の発展に尽くされた故山田岸松氏を偲び、そのご功績を記念するため平成3年に創設されたもので、水産業の経営、技術に優れ、多年にわたり本県水産業の振興に貢献し、その功績が著名な方々に贈られる賞です。

今年度は中村勝行様(JF東二見)、森 正安様(JF森)、亀田篤美様(JF但馬)と、但馬漁業協同組合 香住港ベニガニ組合(JF但馬)の3名、1団体が受賞されました。



山田記念賞の贈呈

受賞者代表 亀田篤美氏の謝辞

「本日、私ども三名、そして一団体は、はからずも栄誉ある「山田記念賞」を受賞したわけですが、これは、ひとえに皆様方のあたたかいご指導、ご支援の賜物であり、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

今、立派なレリーフをこの手にしまして、「山田記念賞」の重みをひしひしと感じ、受賞者としての責任を痛感いたしております。この賞を励みとしまして、今後とも本県水産業の発展のために、微力を尽くす所存でございます。本当にありがとうございました。」



【山田記念賞受賞者】(前列左から)
(平成22年度兵庫県水産賞受賞者)

- ・東二見漁業協同組合 中村勝行氏
- ・森漁業協同組合 森 正安氏
- ・但馬漁業協同組合 亀田篤美氏

(第15回全国青年・女性漁業者交流大会 水産庁長官賞受賞団体)

- ・但馬漁業協同組合 香住港ベニガニ組合(組合長:伊藤誠一郎氏)



井戸敏三理事長の挨拶

表彰式では、当基金理事長 井戸敏三（知事）が受賞者お一人ずつに「天与」と命名された「男女漁業者立像」レリーフを手渡され、「受賞された皆様は、それぞれの地域、分野でさらに活躍されることを期待します。」と挨拶。続いて、系統団体を代表しJF兵庫漁連 山田隆義会長が来賓祝辞を述べられた後、受賞者を代表して亀田篤美氏から謝辞があ



受賞者を祝うとともに浜の活性に期待を込めて…

り、閉式しました。また、式典終了後、事務局から大輪田塾第6期生の紹介があり、塾生の皆さんはそれぞれ今後の抱負など決意表明を行いました。

表彰式に続いて祝賀会が催され、参会者一同、受賞者の栄誉をお祝いし、終始華やかな雰囲気でも幕を閉じました。

“なぎさの守人” シンポジウム開催

—本県より「森地区豊かな海づくり活動組織」が発表—

JF全漁連では、全国各地で発生し、深刻化している藻場での磯焼け現象、サンゴ礁での白化現象などへの対策を支援する『環境・生態系保全活動支援事業』に関する活動事例発表会を毎年開催しており、本年度は去る2月28日、東京都・グランドアーク半蔵門において開催されました。

発表会は、第1部で、国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティングユニット所長のあん・まくどなるど氏による基調講演があり、氏は、ホームステイしながら日本各地の漁村をめぐり、そこに住む人々と接した体験談を交えながら講話されました。その中で、潜水漁業を例に「酸素ポンプを使用せずに操業するなど、単に効率性を求めるものではなく、資源を守るための知恵があるのが、日本漁業の特徴である。」また、「漁業者が日々どんなことをしているか。社会に対し環境に対しどんな活動をしているかが殆ど発信されていないことが強く感じられた。」として浜からの情報発信不足を指摘されました。第2部では、この発表会に先行して開催された全国4ブロックの発表会から推薦のあった8グループの活動事例発表が行われ、全国各地で積極的に取り組まれている藻場、干潟、浅場及びサンゴ礁の保全活動が紹介されました。本県からは、近畿・中国・四国ブロッ



森 正安氏（JF森）の発表

ク大会（1月27日於：広島県）において推薦された「森地区豊かな海づくり活動組織」の副代表・森正安氏（JF森）が「豊かな海の再生に向けて」と題して発表を行い、数十年前から現在に至る森地区沿岸域の地形の変化

の状況や、栄養塩不足によるのりを中心とした水揚げの減少対策として取り組んでいる“海底耕耘”と“池ざらえ”の実践状況が報告されました。その他、学校や住民などの一般の人や自治体、研究機関などとの連携による活動、県外ダイバーを巻き込んだ活動、農業者と漁業者の連携による活動など、各グループの特徴的な活動報告に参加者たちは熱心に耳を傾けていました。（別表のとおり）

事例発表後のパネルディスカッションでは、コーディネーターの名城大学・鈴木教授より、「漁業生産の継続と生態系の維持は同義語としてとらえられ、漁業は効率性を追求すると漁業自体が瓦解してしまうという性質を内在していることが他産業と大きく違う点であり、微妙な生態系と付き合わざるを得ない、重みのある産業である。このため、人材育成と情報の共有・発信が不可欠である。」と締めくくられました。

発表グループ一覧

No.	対象資源	グループ名	都道府県
1	干潟	長万部ほっき貝漁場環境保全委員会	北海道
2	藻場	いわき藻場保全研究会	福島県
3	干潟	蒲都市漁場環境保全協議会	愛知県
4	藻場	的矢湾アマモ再生協議会	三重県
5	浅場	森地区豊かな海づくり活動組織	兵庫県
6	藻場	牟岐の藻場を守る会	徳島県
7	藻場	沖の浦・久通磯焼け対策部会	高知県
8	サンゴ	恩納村美ら海を育む海	沖縄県



あん・まくどなるど氏の講演

2010年度兵庫JCC協同組合研究・交流会開催

兵庫県協同組合連絡協議会

JA・JF・森林組合・生協で構成する兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）は、本年度の兵庫JCC協同組合研究・交流会を2月21日（月）、三木市の生活協同組合コープこうべ協同学苑にて開催し、農業、林業、漁業の生産者と消費者であるコープこうべ組合員ら約170名が参加しました。

今年のテーマは、「環境保護・食の安全・食育など、地域や暮らしに貢献する取り組みを協同組合間で連携してすすめます」というもので、生産者・消費者が意見を交換することでお互いの立場を理解し合い、今後の活動に生かそうという趣旨でした。

開会にあたり、JA兵庫中央会 三木久和専務理事から、「全国的に見ても熱心に協同組合活動を展開している兵庫県のJCC交流会は発足してから27年目を迎える。現在、TPPの問題が注目されているが、これは生産者だけでなく、残留農薬問題、輸入牛肉問題など生産者に係る問題でもあることも認識し、本日の講義を聞いて頂きたい。」と挨拶があり、続いて日本食文化研究所 神木千鶴代表から「豊かな暮らしを支えるもの～生産・流通・消費の相互理解～」と題し講演があり、自ら主宰する料理教室で得た体験等から、「今の消費の仕組みは、生産・流通・消費のそれぞれの立場がバランスの上で成り立っているが、今後、さらに安心・安全を消費者が求めるならば、生産・流通の立場の人に伝える努力が必要である。」と述べられ、参加者は皆熱心に聞き入っていました。

講演後の昼食では、兵庫県産の食材を使った“地産地消”弁当を囲み、生産者と消費者が懇談しました。JF兵庫漁連からは、焼き海苔、明石ダコ、ホテルイカ等が提供され、皆美味しそうに味わっていました。昼食後、食や環境に関する



講演される神木千鶴講師



JF荒井 木村組合長の意見発表の様子

課題について生産者・消費者を交えた意見交換が行われ、それぞれのテーブルでの内容発表ではJF荒井 木村 蕨組合長から水産物の販売での苦労したエピソードも交えた発表がありました。最後に、JF兵庫漁連 山口徹夫専務理事が閉会の挨拶を行い会は終了しました。



会場はほぼ満員でした

「魚をさばくのって楽しい!」を伝えたい ～「対面販売力強化研修会」開催～

JF兵庫漁連



JF兵庫漁連は、水産物販売強化事業の推進にあたり、平成23年1月から2月にかけての4日間にわたり、魚の販売力強化を目的とした「対面販売力強化研修会」を開催しました。

今回の参加者は、県漁連の職員等の16名で、講師陣はJF職員、量販店鮮魚担当者、栄養士、仲買人、料理研究家などが担当、講座は、魚のシメ方・捌き方の講義と実技に始ま

り、調理実技の他に漁法・漁具の知識、食品衛生や栄養学の基礎知識など専門的かつ多岐にわたる充実した内容で、参加者たちは熱心にメモを取っていました。

最終日には参加者全員に「おさかな講師認定書」が手渡されました。今後、鮮魚販売やお魚講習等の様々な機会でも「魚食の伝道師」としての幅広い活躍が期待されます。

池田 敬剛さん (JF 兵庫漁連) の体験記

私が今回参加したきっかけは、自分で魚をさばきたい、おいしい魚料理を自分で作りたいと思ったからでした。

講座についてですが、一日のスケジュールは、朝9時30分から魚のさばき方を学び、次に料理知識として実際に料理を作ります。毎回自分達で作った料理を昼食として食べます。(これが毎回すごくおいしい!) 昼食後に魚知識を学び一日の最後にワンポイント講習があるといった流れでした。

魚のさばき方については、鯛やメイタガレイなどを三枚おろし・五枚おろしから刺身(平造り・そぎ造り)までを行います。講師の方々説明も非常にわかりやすく、また資料も写真付きでわかりやすく、4日間でさばくスピードがかなり早くなったように思いました。料理知識については、煮・焼き・揚げの基本からアラ炊き・汁物・洋食・料理をおいしくみせるテクニックまで幅広く学びます。どの料理もおいしく手軽にできるレシピになっていて料理を普段しない私でも気軽に家で作ろうかなと思うような内容でした。

魚知識についてですが、漁法・漁具の講習では、実際に漁具を手にとって漁法の説明があったり、漁師の方々が魚をとるためにいろいろな工夫をされていることを学びます。魚のシメ方についても実際に活け締めを目の前で見て学びます。また、食品衛生・栄養学についてもパネルを使った講習でわかりやすい内容となっています。最終日に料理教室を実際にどうやって進めていくかの講習を学びます。毎回講座の最後にワンポイント講習として料理写真を「美味しそう」に見せるポイントなどの講習があり一日が終了するといった感じでした。講座は4日間と短い期間ですが、

各講座共に中身がかなり詰まった盛りだくさんの内容で、また私にはすごく新鮮な感じがしました。

この講座に参加して、すぐに料理教室の講師とまではいきませんが、一般の人に「魚を自分でさばくのって楽しい」と、私が感じたことを一人でも多くの人に伝えていけたらいいなと思っています。最近では「漁連の魚屋」直販部隊に魚を買いに行くのがすごく楽しくて、「今日はどんな魚が入ってるのかな?」、「どんな料理できるかなあ〜」なんて思ったりしてます。最後にこのような講座に参加させていただいてありがとうございました。またこのような講座があればぜひ参加してみたいです。



おさかな講師認定書を持つJF兵庫漁連 池田さん

春を告げるイカナゴ漁解禁

～イカナゴ料理教室講師養成講座を併せて開催～



イカナゴを積んだ運搬船が次々に帰ってきました



入札後、すぐにトラックに積まれ加工場や小売店へ出荷されました

3月3日(木)、大阪湾・播磨灘のイカナゴ新子漁が解禁となりました。前日より冷え込み、地域によっては雪が降るといった状況でしたが、各浜では解禁を待ちわびた漁業者が一斉に出漁し網を下りました。

淡路島東浦地区のJF津名・生穂漁港でも朝早くから水揚げが始まりました。水揚げされたばかりのイカナゴは次々とカゴに入れられては競り落とされ、トラックに素早く積み込まれ運ばれて行きました。この日は午前10時の網上げでしたが、1,200カゴを超える水揚げがあり、浜は約1年ぶりの新子漁に活気づきました。

今年成魚の産卵数が昨年に比べ多いものの、産卵時期が年末年始にかけて若干遅かったことや、海水温が低かった影響からか、やや小さいサイズも見受けられ、関係者からは今後の水温上昇と共に順調に生育していくことを願う声もありました。

またこの日、兵庫県イカナゴ謝恩実行員会とJF兵庫漁連が兵庫県水産会館にて「いかなご講師養成講座」を行いま

した。この取り組みは、小中学校や量販店等で行われるイカナゴ料理教室の講師を一般の方から募集し、選ばれた方を対象に必要な知識・調理技能を習得してもらい活躍して頂くために開かれたものです。講座には面接試験から選ばれた11名が参加し、JF兵庫漁連 突々 淳参事からイカナゴの基礎知識を、また、調理実技はJF兵庫漁連食推進室 隅谷 翠室員から講義してもらいました。参加者の中にはくぎ煮を毎年炊いている方も多かったようですが、イカナゴについて初めて聞く話があったり、炊き方も随分違うことに加え、イカナゴも炊いたことのない小さいサイズだった方もおられたようで、驚いたり、戸惑ったりしていた様子でした。それでも調理が進むにつれ、皆さん、しっかりと“くぎ煮”を完成させ、講師としての知識習得と共に自信を深められたようです。今後、講師の皆さんが、量販店や小中学校での料理教室で「イカナゴの新平くん・新子ちゃん」と共に活躍されることに期待するとともに、本年度のイカナゴ漁がどうか無事に、豊漁に恵まれることを祈念します。



講師養成講座での突々参事による講義



隅谷室員の手さばきに皆が注目



イカナゴの新平くん・新子ちゃんも準備万端

JF マリンバンクひょうごからご案内



今年もやります！ スプリングキャンペーン'11



平成23年3月1日（火）から平成23年4月28日（木）まで

いつもご愛顧いただきありがとうございます
上記期間中、新規定期貯金（1年）をお預けいただきますと
下記の優遇金利でお預かりいたします

スーパー定期・大口定期
1年もの 新規 10万円以上
0.25% (税引後0.20%) にてお預かりします

さらに、JF兵庫信漁連が預入金額の0.01%を
「水色の羽根募金」に寄付いたします。

(詳しくは次項をご覧ください)



兵庫信漁連は
水産業の発展をサポートします

JF
マリンバンク

JF兵庫信漁連 本店

(078-919-1210)

商品概要については、裏面をご覧ください。
詳しくは、窓口までお問い合わせください。

- ※表示金利の適用は、新規10万円以上預入が対象になります。
- ※窓口でのお預入に限らせていただきます。(ATMでのお取扱いは対象外とさせていただきます)
- ※利息には20%の税金がかかります。(税引後0.20%)
- ※金利の優遇は初回満期日までとさせていただきます。満期日以降は店頭金利での自動継続となります。
- ※中途解約の場合、解約日の普通貯金利率により計算した利息とともに払戻いたします。
- ※金利情勢により期間中でもお取扱いを終了させていただく場合がございます。

スプリングキャンペーン‘11は、 ご利用のお客様とJF兵庫信漁連が、 「水色の羽根募金」に貢献できる商品です。

漁業の背景には、海難事故の悲劇があります

「水色の羽根募金」は、不幸にして、海難や海中転落等により被災した漁業者の子弟に対して学資給与・奨学金貸与等を行う漁船海難遺児育英資金の造成に寄与することを目的としたものです。JF兵庫信漁連は、スプリングキャンペーン‘11期間中に、お客様からお預かりした対象貯金の総額の0.01%を負担し、「水色の羽根募金」へ寄付いたします。（お客様のご負担はありません）

本商品のしくみ



※スプリングキャンペーン‘11の商品内容は、前項をご覧ください。



—漁船海難遺児に愛の手を—

(水色の羽根は漁船海難遺児を励ます募金運動のシンボルです)
<http://www.jf-net.ne.jp/ikueikai/>

JF
マリンバンク

JF兵庫信漁連淡路島支店で強盗訓練

～冷静な対応を職員が再確認～

JF兵庫信漁連

去る2月9日(水)、淡路警察署の協力のもと、信漁連淡路島支店において「模擬強盗訓練」が実施されました。

信漁連では防犯対策要領に基づき、万一の事件発生を想定し、あらかじめ各職員の任務分担、警察への迅速な通報等の徹底を図ることを目的として、定期的に模擬強盗訓練を実施しており、今回で4回目となります。

訓練の内容は、業務終了後に警察官1名が強盗に扮して侵入。拳銃を突き上げ発砲、大声で現金を要求するといった内容。

犯人の要求に対し、人命最優先を基本に冷静に対応し、人相の確認や非常通報ボタン押下等の役割分担は果たしたものの、犯人に対しカラーボールを投げる予定が、もう1名の犯人がエンジンをかけたまま待機していた車で逃走したことから、追いつけず投げる事ができませんでした。

訓練終了後に、淡路警察署の生活安全課より「昨年、県下で発生した強盗事件204件のうち、金融機

関を狙ったものは5件。発生件数が少ないからといって、当店が狙われない保証はない。実際の犯行時には、①知らせる(110番)。②待たせる(現金を渡すまでに時間をかける)。③覚える(人相・服装・言葉づかい)。④追いかける(カラーボール・逃走方向)を落ち着いて行動するよう指導があり、各職員が再確認しました。

当日は、新聞社も取材にきており、記者からの質問に寺田支店長は「訓練とはいえ緊張した。反省点は今後に生かしたい」と答えていました。



模擬強盗訓練の様子

旬に想う

写真と文
遊方子

野鳥を探して

◆水辺に野鳥を毎日のように見ている。浜辺の散歩を日課としており、小雨くらいなら傘をさして歩いて、周辺に現れる野鳥観察を楽しむ。夏は人影も多く鳥の姿は少ないが、冬季はヒドリガモが百羽余り渡って来、浜辺はかなり賑やかになる。この淡水カモは、亜寒帯から寒帯で繁殖し日本へは越冬に渡来する。海辺に群れてアオサなど海藻を食べる。養殖ノリを食って追い払われたりもするらしい。浜の散歩道を歩いて鳥の群れに近づくと、一羽がピュウーと口笛のような鳴き声を上げる。群れが一斉に動く。統率する班長が、全てに指図しているようで実に愉快な眺めである。時にウミアイサが混じっている。

◆ヒヨドリは30センチ程のスズメ目ヒヨドリ科、鳴き声からの命名である。全身は灰色がかり頬の茶褐色が目印になる。木の実を銜えて口へ放り込む。藪椿の蜜を吸い花粉媒介もするが、野菜や果樹に被害も与える。北方や山地で繁殖、冬には暖かい地方へ移動する。北海道で子育てした群れは、津軽海峡を渡って本州で越冬する。名前の似たイソヒヨドリはツグミ類の留鳥、海辺の崖で囀り海岸近くで採餌している。オスは頭と背が淡青く腹は赤茶色で羽先の黒が実に鮮やかだ。メスは全体が褐色で腹下の波模様でイソヒヨドリと判る。

◆ジョウビタキは赤茶色の腹と顎の黒色が際立ち、羽根の白い紋が紋付きの礼装を思わせる。中国西部からウスリー、サハリン辺りで繁殖し、日本へは冬鳥として来る。小さな虫ヤツタの

実を食べ、嘴をカタカタ鳴らして、縄張りを争い追っ掛け合う。低い枝でおじぎをするように頭を下げ、尾を振る仕草がとても愛らしい。セキレイの番いも見かける。巣があるらしい。野鳥の住める場所は、人間にも健康的で、豊かに暮らせる環境といえる。鳥の目で自然を観る。身近かな自然を守る。野鳥を脅かさぬよう観察するのも大切なマナーだ。

◆全世界で約9千種の鳥類がいる。日本で記録されたのは、うち五三六種というが3割程度の珍種も含まれるから、確実に見られるのは約三五十種程らしい。日本へ渡って来るのは冬鳥が多く、冬季は観察に最適といえる。木の実は、鳥に食べられタネが糞と共に落ちて繁殖に繋がる。樹木の多い公園や溜め池が付近にあれば、野鳥を探す好適地である。秋から冬にカモ・シギ・チドリ類も多くなる。明石の野々池貯水池にオオパンの姿があった。餌を与えているらしく人馴れし岸近くに寄って来るが、警戒心は強い。野鳥に目を向け、空や林や水辺へと目を注げば、解放され伸びやかな気分になってストレスも吹き飛ぶ。



波打ち際で

大輪田塾だより

2月講座と第14回「山田記念賞」表彰式・祝賀会への出席

大輪田塾2月講座は、22日(火)に「兵庫県の栽培漁業について」ど「食品産業の現状について」の2講座が開催されました。「兵庫県の栽培漁業について」は(公財)ひょうご豊かな海づくり協会 永山博敏主幹から県内の栽培漁業の基礎知識や現状、今後の課題等についてパワーポイントを使い、分かりやすく講義が行われました。また「食品産業の現状について」では大輪田塾アドバイザー 秋武 宏氏から、パワーポイントを使った講義が行われ、国内の食品産業の概要や、水産業の地位等について詳しく解説されました。

塾生は、栽培漁業について関心が高かったようで、多くの質問が出され予定時間いっぱいまで意見が交わされていました。また、食品産業の現状については、大きな産業の中の漁業の在るべき姿などについて講義終了後も塾生同士で議論がなされ、今後につながる問題意識を持たれたようでした。

また、2月16日(水)に開催された第14回山田記念賞表彰式・祝賀会に大輪田塾6期生の4名(1名は出漁中で欠席)が出席しました。(3ページ目の山田記念賞関係記事を参照)

これは、その年度の入塾生を出席者に紹介し、各塾生が壇上から決意表明を行うもので、塾生の皆さんははじめ緊張した面持ちでしたが、いざ順番が回ってくると立派に決意を表明し、会場は期待を込めた出席者の大きな拍手に包まれました。



決意表明後の記念撮影
(左から小林さん、保田さん、井戸理事長、村田さん、仲野さん)



「兵庫県の栽培漁業について」の講義



「食品産業の現状について」の講義



紹介を受ける6期生の皆さん

県内で初の 金融移動店舗車が運行開始

1月17日、JA丹波ささやまでは、兵庫県内で初めて金融移動店舗車「ふれあい号」の運行営業を開始した。

今回、新たに動く有人店舗「金融移動店舗車」を導入し、支店から距離がある旧支店跡地6カ所を拠点に店舗機能の補完として循環運行する。

土日、祝日を除いて毎日、3～4カ所を拠点に、1拠点につき週3回、巡回して営業を行う。業務体制は、金融支店とほとんど変わらない対応で、貯金の入出金をはじめ、振込、公共料金の納付、共済掛金受入れや、経済事業の注文、さらには年金、融資の相談業務も行う。

同月11日には運行開始に向けて、同JA本店前で、安全を祈願する「入魂式」および記念式典を行った。

同JAの仲井厚史代表理事組合長は、「組合員・利用者に、身近な場所で安全な金融サービスを提供できる、『動く窓口』として機能を発揮していきたい」と話した。



金融移動店舗車「ふれあい号」を利用する組合員

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

西宮市で 「夕食サポート まいくる」 先行スタート

コープこうべでは、1月31日（月）に西宮市内（一部除く）の宅配利用組合員様を対象に「夕食サポートまいくる」がスタートしました。

「夕食サポートまいくる」は、高齢者や単身の世帯にバランスの良い食事をお届けし、夕食をサポートするコープこうべの新事業です。

ご注文は、週単位（月曜～金曜）で、おかず盛り（おかずのみ6品）と、ごはん付き（おかず5品）の2種類から選んでいただき、「安全・安心」「おいしさ」「健康」をコンセプトに、和食を中心とした調理済みのお弁当を冷蔵状態でお届けします。

4月からの本格展開を目指し先行運用として、西宮市の宅配利用組合員様を中心に取り組みをスタートして約2週間、利用者は170人になりました。4月までに1日300食を見込んでおり、利用者の方から献立のご意見を伺いながら、より良い商品となるように取り組みをすすめています。

また、コープこうべならではの取り組みとして、地域のボランティア振興に役立てるため、1食につき0.5円を、コープともしびボランティア振興財団に寄付させていただきます。



毎日のあんしんを、手から手へ。



レンジ対応の容器でお届けします

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

“命を守る運動”

「海上安全講習会」は開催されましたか？

海難事故は後を絶ちません。

- 全国における海難事故の発生件数
平成21年で2,549隻（前年比135隻増）、
うち漁船は812隻（前年比80隻増）と全体の3割。
乗船者数別では一人乗りの事故が
334隻で漁船事故全体の4割。

兵庫県下も例外ではありません

ライフジャケット着用について

- 平成20年4月の法改正で、漁船での1人乗りの航行・漁労中の場合は、ライフジャケット着用が義務付けされましたが、着用率は依然低いまま。



受講者に配られる「海上安全講習会受講旗」

事故を未然に防止するため

“命を守る運動”「海上安全講習会」を県下各地で開催しております。



昨年9月にJF赤穂市で開催された講習会の様子

～講習会の開催申込みは下記団体まで～

この取組みは、平成22年1月のJF室津を皮切りに、平成23年2月末日までに11JF、県漁青連・県女性連など3団体、延べ約900人が、海難事故事例とその対策・ライフジャケット着用推進の内容で受講しています。（この模様は本誌「拓水」で適宜紹介しています。）

講習会開催についてのお問い合わせは
JF 兵庫漁連指導部（代表）まで
TEL 078-940-8013

主催 漁業協同組合・JF 兵庫漁連・共水連兵庫県事務所・兵庫県内海漁船保険組合
(公財)ひょうご豊かな海づくり協会・(財)兵庫県水産振興基金
協力 神戸運輸監理部 各海区の海上保安部 関西小型船安全協会

表紙の言葉



「イカナゴ新子漁」解禁

3月3日（木）に播磨灘・大阪湾で統一解禁となった“イカナゴ漁”は、瀬戸内海に春を告げる風物詩として、また春の味覚として待ちわびた人も多いはず。淡路市の生穂漁港では、早朝からJF津名所属の31統の船曳網漁船が出漁しました。何回にもわたる運搬船の往復や、荷揚げの様子、荷捌所での仲買人の買付、飛び交うカモメなど、瀬戸内の“浜の春”がやって来ました。